

基本目標	委員 1		委員 2		委員 3		委員 4	
	施策	意見	意見	意見	意見	意見	意見	
≪基本目標①≫しごとづくり		・KPIのうち「有効求人倍率」、「就労促進に関する事業への参加者数」などの推移は令和2年に急落するなど、コロナ禍の影響を鮮明に読み取れるが、コロナ感染症の5類移行（令和5年5月）後も芳しくない。他方、「創業者数」や「販路開拓支援件数」は令和3年以降に急上昇するなど、新たな創業や既存企業の新規事業への進出など、コロナ禍やポストコロナに対応した動きも読み取れる。これは、コロナ禍という未曾有の事態に対して、令和3年以降は民間部門が積極果敢に創業や（既存企業が新事業に進出するなど）経営革新したものと思われるが、本市の取組がこれをバックアップしたものと見ることもできるだろう。 ・「有効求人倍率」については、内部評価で指摘するとおりと思う。	・目標値を下回る施策もあったものの、前年度と比べて大きく増加している施策も多く効果は発揮できているといえる。		・評価指数の向上については、個別の支援よりも、工業団地の造成・企業誘致によるしごとづくり、インフラ整備や住みやすいまちづくりなど、行政の役割によるところが大きい。目標については概ね達成できていると評価するが、今後も「元氣な豊川」が続くような施策の実施を求めたい。		・内部評価にもあるように、KPI「有効求人倍率」が正確なものでないのであれば施策自体が正しいものかどうかを判断できかねるため、早急な指標の見直しが必要である。それを基に総合評価に反映すべきと考える。	
	（１）創業・起業・販路開拓支援、新たなビジネスモデル構築などへの支援	・物価高騰や人手不足のなかでも、「創業の機運を的確に捉え創業や経営改善、事業継続の支援を必要とする事業者のニーズに対応」してきたことを評価した。 ・空き店舗を活用した創業ニーズをターゲットに、「創業や経営改善、事業継続の支援を必要とする事業者のニーズに対応」したことを評価した。	・令和6年度の連番1「チャレンジとよかわ活性化事業」は、目標値に届かなかったものの、令和5年度に比べ実績値が伸びている。今後も期待したい。 ・連番4「未来技術の社会実装を通じた地域産業の強化」は、重点的に絞って実施したとはいえ、令和5年度に比べ大きく下回っているので今後の目標値の見直しと実施可能かどうかの見極めが必要である。	・景気や社会環境に影響される項目が多い中で概ね目標を達成していることは評価する。 ・創業・起業の希望者は、零細な事業から始める人が多く、起業希望者と支援者側の意識のずれを感じる。また、起業しても事業を長期にわたり維持、発展させることは難しいので、失敗しても再度挑戦できる仕組みづくりが必要である。 ・販路拡大支援については、オンラインによるもの、リアルの出展など様々であるが、人に会って直接話ができることのメリットは大きいと思う。展示会の出展料も高騰しているので支援を拡大する必要があると思う。		・この制度を活用したい人は多分にいると考える。さらに、令和3年度を境に創業者数は目標値の倍となっている背景を考えると、この目標値の見直しも必要に思う。 ・KPI「販路開拓支援件数」については、令和3年度から令和5年度までは未達だったが、令和6年度に目標値を達成したことは評価するべきと考える。しかし、近年コロナの蔓延、物価高、金利の上昇を背景に販路を広げたいと考えている会社は多数あるため来年度以降は積極的な周知が必要であると考える。		
	（２）就労促進、人材育成支援		・若者の地元就職はどの自治体でも大きな課題であるため、これまで連番8「首都圏人材確保支援事業」の実績値は無いものの、本制度の継続とより一層の取組が必要である。	・東三河からの若者の流出が止まらないのに、首都圏からの人材を確保する目標は少し無理があるかと思う。東三河の若者の求職は、どうしても尾張・西三河に目が行きがちであるが、東三河にも優れた企業は多いので、SNSなどを通じた情報発信や進路指導の教職員への情報提供など、地域に目を向けてもらえるような取組を進める必要がある。また、既に導入した連番9「奨学金返還支援事業」の周知・拡充など若者が定着しやすい施策を今後も検討すべきである。		・連番8「首都圏人材確保支援事業」について、令和元年から令和6年まで実績値が「0」であるため、この施策が正しいのか見直す必要があると考える。また、補助金の拡充はできているが交付に至らないというのは、どういった理由なのか整理し、検証する必要があると考える。		
	（３）農業・商業の活性化と経営・生産性向上の支援		・就労支援に関する事業への参加者数は伸びているものの、KPI「新規就農者数」は減少傾向にある。連番10「ひまわり農業協同組合との連携による就農者および生産性向上への支援」に記載されているように就農塾の受講要件の該当者が少ないということから、要件の見直しを検討する必要があるのではないかと。	・農業について、新規就農者をいかに増やすかが課題である。資材の高騰、農産物価格の不安定化、後継者不足など、農業を取り巻く環境は厳しいものがある。地方自治体の範疇を越えているが、産業としての視点に加え、食糧安全保障の面からも支援をする必要がある。 ・商業について、相次ぐ大型店の進出により、地域の小規模な事業者は厳しい状況にある。著しい高齢化が進む中で、地域の商業が果たす役割は非常に大きい。後継者がおらず将来の見通しも暗い中では地域事業者の減少に歯止めをかけることは難しい。大規模店舗に負けない個性ある店舗や地域に必要とされる商店をいかに残せるかが地域の活性化における大きな課題である。会議所としても「創業塾」や「商人塾」を開講しているが、今後も意欲のある事業者の育成に努めていく必要がある。		・連番15「既存事業者への多様な産業活性化に向けた支援」については、今後も積極的な支援を続けていただきたい。		
≪基本目標②≫ひとの流れづくり		・主たるKPIとして「転出・転入者数」が用いられているが、住民基本台帳の人口社会増減数を用いると、社会増減数の内訳（日本人か外国人か）を見ることがができる。製造業を軸とした企業集積が見られる本市の場合、住基の社会増減数を用いた方が主たるKPIとして適切ではないかと思われる。製造業を軸とした企業集積が見られる地域では、例えば、リーマンショックでは職を失った外国人が激減したり、アペノミクスでは外国人が増加したりする。外国人の人的なネットワークで同じ国籍の人が特定地域に集まってくることもある。取組の成果を適切に評価する上でも、主たるKPIの妥当性を検討することも必要であろう。	・KPI「SNS登録者数」の目標達成や観光・宿泊等の観光客は伸びているものの転入が減少していることから、市独自の取組が一層求められる。	・少子高齢化が進み人口の自然増が期待できない状況において、人口の減少をできる限り食い止める地域の活性化を維持するためには、転入者や交流人口の増加を図る以外に方法はない。そのための施策については様々なことが考えられるが、どれも行政の施策によるところが大きく、また、地域の発信力が問われるところであると思う。 ・観光面でのインバウンドについては、愛知県は愛知から福井、北陸方面に向けての「昇龍道」を提唱しているが、東三河にも観光コンテンツは多く、「龍」の腕ぐらいは東三河にも延ばすような要望を出すべきである。		・交流人口や企業立地の推進など市長や関係部署の取組もあり、事業効果を発揮していると考える。		
	（１）企業立地・産業集積の推進	・連番20「トップセールスによる企業誘致」等の取組とその成果を評価した。	・この活動指針については、企業誘致につなげる取組がされており、今後の一層の取組に期待した。	・工業用地の開発に尽きると思う。豊川市は東名高速道路、国道23号バイパスなど交通インフラの面からも恵まれている地域であるが、今一つ知名度に欠けるように感じる。展示会等への行政の出店はすぐに目に見えた効果が現れないため消極的になりがちであるが、地道なPRも必要であると思う。また、企業の情報は日頃からの交流も重要であるので、情報交換会など様々な機会を通じて交流を深めるべきである。				
	（２）地域資源の活用推進	・KPI「年間観光入込客数」、「中心市街地の通行量」、「市内宿泊施設宿泊者数」などの推移は令和2年に急落するなど、コロナ禍の影響が鮮明に読み取れるが、「年間観光入込客数」、「市内宿泊施設宿泊者数」は令和4年以降は回復傾向が見られる。 ・KPI「中心市街地の通行量」は、令和3年以降「隔年現象」で増減が見られるのはなぜか。 ・連番25「スポーツ・文化活動等会館への支援」の取組では、「観光協会と連携してチラシやホームページを活用し県内外へPRを行うことで、合宿宿泊者数は目標値」を上回ったことを評価した。登録者数が増大しているSNSとの連動が期待される。	・前年度に比べ実績値が大きく増加している事業が多く、KPIも前年度に比べ増加していることから、事業の効果が発揮されているといえる。 ・今年度は数値が下がった連番27「豊川公園の多機能化への再整備」については、豊川公園の再整備により、より一層の利用者数増に期待したい。	・観光の大きな拠点として豊川稲荷があり、令和8年には午年開帳、令和12年には大開帳が予定されており、地域のPR、誘客に大きな役割を果たすものと期待している。こうした機会を活かすとともに、他にも優れた地域資源や豊川ブランドもあるので、相乗的に活用し地域の活性化を進める必要がある。	・連番27「豊川公園の多機能化への再整備」について、体育館の大規模改修により利用者数が減少したということは、体育館の利用価値が高いことが見られるため、体育館の改修後にどのような施策を打つのかを検討し、より効果的な施策の実施を期待する。			
	（３）シティセールス・観光の振興を核とした移住・交流等人口の拡大の推進		・KPIの実績値から、施策の効果が発揮されている。	・以前は豊川市においてバブリンシティが盛んに喧伝（けんでん）され、外に向けた情報発信にも積極的に取り組んでいたように思っていたが、近年は地方紙への記事掲載や放送での地域情報などにおいても低調に感じられる。市役所内には「元氣なとよかわ発信課」もあるが、まだまだ「元氣さ」が足りないように思う。マスコミへの情報提供・取材協力、SNSを利用した情報発信など日常的に話題を提供し続けなければ、溢れるような情報洪水の中で埋没してしまう恐れもあるので、観光振興、交流人口の拡大に向けて常に発信力を高める必要がある。	・連番30「インバウンド対策事業」について、令和8年は豊川稲荷の午年開帳があり、さらにアジア・アジアバレー競技大会の開催など外国人の流入が多く見込めるため、より一層の豊川市のインバウンド事業を強化していただきたい。			

基本目標	委員 1	委員 2	委員 3	委員 4
	施策	意見	意見	意見
≪基本目標③≫結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる地域社会づくり			・誰もが活躍できるという表現になっているが、特に女性が活躍できる地域社会づくりについては、まだまだ企業の意識が低いと感じる。特に出産・子育てについては、どうしても女性に大きな負担がかかりやすく、従業員数の少ない小規模・零細事業所ほど対応が難しいのが実状である。事業所単独では限界もあるので、地域全体、さらには県・国も加わった中での支援が必要である。	・人口が増えているのは、安心して子どもが産める環境や女性の社会復帰に積極的な事業を行っている結果であると考える。
	（１）安心して出産し、子どもが健やかに育つための支援		・特に連番42「不妊治療費補助事業」は制度の周知の効果もあり、前年度比で大きく数値を伸ばしていることから、多くの方に制度周知がされていることがうかがえる。	
	（２）保育サービス・子育て支援サービスの充実と子育てにやさしいまちづくり	・KPI「3歳未満児の受入れ」や「放課後児童クラブ利用者数」は右肩上がりに推移している。各種の取組が奏功していると評価できる。	・共働き世帯の増加に伴い、連番60「放課後児童健全育成事業」は大変重要な取組の１つといえ、児童福祉の向上の取組が一層重要である。	・昨今の働き方改革を機に女性の再就労が増えてきているため、今後さらに安心して仕事ができる制度を整えていくことを期待する。
	（３）共生のまちづくりの推進	・KPI「自立高齢者の割合」、「障害者相談件数」はともに目標値を上回っている。各種の取組が奏功していると評価できる。	・全体的に指標の実績値が目標値を超え達成していることから、それぞれの施策の効果は発揮されているといえる。	
≪基本目標④≫安全で快適に暮らせるまちづくり			・高い確率での南海トラフ地震の発生が喧伝（けんでん）されている現在、安全なまちづくりは喫緊の課題である。地震を始め自然災害に備えることは重要であるが、いつ発生するか不確かである以上、完璧な対応は不可能である。しかしながら、常に非常時に備える意識を持ち続けることは、被害の軽減に繋がるものであるので、行政として啓発や防災訓練など将来に備えた施策を展開すべきである。	・取組の効果が達成状況にも反映されていると考える。引き続きの積極的な取組を期待する。
	（１）拠点間の連携・拠点周辺への都市機能集約と居住の促進	・KPI「都市機能誘導区域の人口割合」は目標値を上回る一方、「鉄道駅の乗車人員」は令和2年に激減するなど、コロナ禍の影響が鮮明に観測される。「鉄道駅の乗車人員」は回復傾向にあるが横ばいであり、今後に期待したい。 ・連番76「空き家等対策の推進」などの取組も成果を上げており、今後に期待したい。	・連番72「拠点地区定住促進事業」について、転入者の拠点地区への定住促進は成果も上がっており評価する。しかしコンパクトシティの推進として拠点への移住が提言されているが、なかなか難しいのが実状である。不便であったり危険性が指摘される地域であっても自発的に移住を進めることは困難であるので、いかに危険を回避するか、また、万一の場合に備えた対応を常に意識できるかが肝要である。	
	（２）地域の安全・安心・高付加価値化の推進	・3つのKPI「「安全・安心」市民満足度の平均値」、「防災アプリおよびよかわ安心メール登録者数」、「交通事故（人身）年間発生件数」はいずれも達成されており、各種の取組が奏功していると評価できる。	・豊川市は比較的災害の少ない地域であるが、大災害の発生時に大きな力となるのが近隣住民の協力による地域力である。大災害においては行政の対応にも限界があり、自助、共助こそ重要である。そのためには地域の繋がりが重要となってくるので、町内会の役割を再評価すべきである。 町内会については末端行政としか見ていないような状況も見受けられるので、権力行政の下請け的な業務を廃し、町内会の業務を防災と環境程度に絞り、参加住民の負担を減らす取組を進めるべきである。	
	（３）地域マネジメントと民間活力の導入	・2つのKPI「「豊川市の住みよさ」市民満足度」、「新たに取り組む事業連携数」はいずれも達成されており、各種の取組が奏功していると評価できる。	・公共サービスの向上については、民間の活力導入の余地も大きい。しかしながら民間業者に管理を委託した施設における利用者への対応を見ても、悪しき公務員的な対応となっているところも見受けられる。民間業者に業務を委託する方が経済的だという発想だけでは真の市民サービスにつながらないので、市民サービスの原点に立ち戻って検討してみる必要がある。	・連番91「公葬設置管理制度などによる民間活力を導入した公園の新たな利活用」について、公園の利用者は増加傾向であり、今後も赤塚山公園の価値は高まっていくと考える。しかし、あかつかテラスの活用頻度がまばらに感じるため、効果を最大化できているのかの検証は必要である。さらに、期間限定のナイトイベントを増やし、老若男女問わず利用できる施設・公園となるよう施策を展開していただきたい。

基本目標		委員 5	委員 6	委員 7	委員 8
施策		意見	意見	意見	意見
≪基本目標①≫しごとづくり		・KPI「有効求人倍率」については計画を開始した平成30年以来最低値が見えてきてしまった。就職形態などの環境変化が原因で正しく測ることができないということだが、基本目標①にとって主たる重要業績評価指標であるため適切に管理できる指標もしくは目標値を早急に整理してほしい。 ・農産物の産出額や販売額は、近年、年度ごとの単価が大きくぶれ、その影響を大きく受けるため一概に比較できない。年度ごとの変化を見るには数量の推移を見る必要がある。 ・各事業の担当部署職員は、豊橋市や蒲郡市の職員のように各事業対象者がよく参加するセミナーや講義等へ積極的に参加した方がよい。私も情報収集のために個人的にセミナー等へ参加するが豊川市職員をあまり見かけない。他の基本目標と違って泥臭く取り組むことで成果が大きく動く項目だと思うのでよろしく願いたい。		・コロナ禍の影響を受けKPI「創業者数」、「新規就農者数」以外は数値減少したが、令和5年以降は「農産産出額」、「主要農産物の販売額」は順調に数値が回復傾向で推移しており評価できる。 ・労働力人口の確保のためKPI「就労促進に関する事業への参加者数」、「有効求人倍率」の増加に繋がることを期待したい。 ・「アトツギ」を対象とした他業種との繋がりを持つ「場」を開催する。	・KPIの目標値より「創業者数」が2.07倍、「販路開拓支援件数」が1.20倍に増え、目標を超えたことは事業効果があり事業を継続するべきだが、「有効求人倍率」については、人材募集の媒体が近年は変化があり、工夫すれば効果が発揮できる。例えば、予算がない場合でもSNS、HP、無料掲載できる媒体等を活用したり、少しの予算でできるInstagram広告でターゲット（年齢、エリア、趣向等）を絞って募集し、簡単な告知やわかりやすい業務等、事業を見直しできれば事業効果が発揮できると考える。
（１）創業・起業・販路開拓支援、新たなビジネスモデル構築などへの支援		・KPIが全て「A」評価であり効果が発揮されている施策だと高く評価できる。ただ、各事業については目標値達成率は5割であり課題はある。 ・特に連番4「未来技術の社会実装を通じた地域産業の強化」については、自己評価「△」の割に評価理由の分析が甘い。「2. 施策の評価」へは課題の記載もない。ドローン試験が順調なため良しとしているのかもしれないが、適切な振り返りがなければ改善は見込めないため心配である。ドローンに関する社会実装のための試験は体系化されているがそれ以外の技術支援が弱い。対象企業が全く違うと思うので豊川商工会議所等と連携しながら未来技術に関する試験希望のアンケートや補助等の支援システムを検討してはどうか。実証実験件数の目標達成につながると感じる。 ・連番1「チャレンジとよかわ活性化事業」はいつも言うとおり、①創業②経営革新事業③販路拡張や市場開拓への補助金制度の各事業の推移が知りたい。その結果を踏まえた効果的なアプローチ施策があるのではないかと。 ・連番2「とよかわ創業・起業支援ネットワーク」を活用した創業・起業の支援」で相談に対して創業率が落ちている理由は分析しているか。		・事業別自己評価一覧において、4項目中2項目が「◎」であり事業の活動は評価できる。 ・連番1「チャレンジとよかわ活性化事業」、連番2「とよかわ創業・起業支援ネットワーク」を活用した創業・起業の支援」、連番3「遊休不動産などの活用による創業支援」については、実績値より評価できる。これらの項目は、事業所自体も興味ある項目であり、今後の安定的な推移のために「核案しやすさ」「目の留まりやすさ」を意識された活動を期待する。 ・連番4「未来技術の社会実装を通じた地域産業の強化」は、時間を要する項目であると考ええる。実績値が昨年度と比べ50%に減少した理由を踏まえ、今年度の活動に期待する。	・連番3「遊休不動産などの活用による創業支援」について、参加者数が令和5の38人から120人への増は、効果が十分発揮できている。様々なリノベーション事例から学べるように工夫し事業を見直し志が發揮でき、中心市街地の活性化、空き店舗活用に十分に寄与できている。 ・KPI「創業者数」、「製造業の事業者数」も増え、集計方法に変化があったが十分に効果を發揮できている。 ・連番4の「未来技術の社会実装を通じた地域産業の強化」は、東三河ドローン・リバー構想推進協議会の実証実験事業だけに絞っているが、ドローンの法律が厳しくなり運営に課題もあるのではないかと。実証実験の内容を改善（例：室内も可とする等）できたら事業が進めやすくなるのではないかと。
（２）就労促進、人材育成支援		・KPI「就労促進に関する事業への参加者数」が「C」評価にもかかわらず未達成理由の分析がないのは問題ではないか。どこに問題があり何をどのようにすれば「B」評価や「A」評価にできるか記載がほしい。目標値が過大であるという認識であれば適切な目標値にすべき。これではPDCAがまわせない。 ・連番9「奨学金返還支援事業」について、登録はあるが補助金未利用の事業者はどういう事業所なのか。申請漏れがないように周知してほしい。 ・連番8「首都圏人材確保支援事業」は今後どうするのか。次計画から外す予定か。 ・今年、元気なとよかわ発信課は移住フェアに参加した。年々移住フェア参加者が増えており、今年のフェア当日は、豊川市ブースも休憩が取れないほど盛況だった。フェアへの定期参加は非常に意義があると感じた。現地では他府政は連番8「首都圏人材確保支援事業」をPRしながら移住促進を進めているが、計画当初から実績ゼロと大きな問題を抱える中でなぜ担当部署は同フェアへ同行しPRをしなかったのか。事業計画への取組意識が低いのではないかと。		・5事業のうち3事業が目標を達成しており評価できる。 ・連番5「職業能力開発専門学院支援事業」、連番6「地域技能者活用事業」、連番7「若年者の就労支援」、連番8「首都圏人材確保支援事業」は、豊川市の事業所において必要なことと、労働者目線からも必要なことであると判断する。次年度以降も継続していくことで、豊川市内の労働スキル向上に繋がることと期待する。 ・連番9「奨学金返還支援事業」の取組は若手職員の定着率上昇に寄与する取組と考える。	・ほとんどの事業で、また連番8「首都圏人材確保支援事業」の事業も工夫があり効果が発揮できているので「A」をつけたかった。連番8「首都圏人材確保支援事業」については、令和6年度に事業を工夫し、地元で就職した首都圏学生への交通費の補助を開始し、制度内容を拡充したにも関わらず、補助金交付に至らなかったとあるが、制度の内容が利用しにくいものであるならば、利用できる制度改善はできないのか。地元企業と連携した取組が効果を發揮できるのではないかと。自己評価に工夫の内容を記載したことは、評価に値する。
（３）農業・商業の活性化と経営・生産性向上の支援		・近年の高温化に伴いいずれの品目も生産量が大幅に減少している。県の普及課やスタートアップ企業と連携して対応策を検討しているがなかなか成果が上がらないのが現状である。そのため積極的な新規就農者募集もしづらい環境になっている。高温化対策は試験が必要かつ設備や資材導入などコストがかかる。豊川市においても高温化対策の助成等を検討いただけるとありがたい。そうすれば産出額や販売額が目標値に近づくと考えている。 ・連番13「豊川産農産物のブランド化・販路開拓への支援」の事業費の内訳が知りたい。農政企画協議会では全体で200万円の事業費となっており、その他のようなものがあるのか。ちなみに加工品は国の補助金を活用して音羽エリアでも音羽米の商品開発を進めている。国の補助対象外の部分が大きいため大葉だけでなく、音羽米も入れてほしい。ミニトマト、イチゴなど他品目も公平に事業費分配すべきである。	・新規就農者や耕作放棄地解消などは目標には達していないが施策の効果は出ていると感じる。有害鳥獣対策への支援をもう少し重点施策とするなど見直しが必要である。	・連番13「豊川産農産物のブランド化・販路開拓への支援」、連番14「地産地消、食育推進への支援」については、個人的にも興味がある。目標値も達成していることから十分評価できる。 ・連番15「既存事業者への多様な産業活性化に向けた支援」について、補助金を活用した事業者が少なかったことよりも、事業者の支援や豊川商工会議所が実施するアンテナショップなどの複合的な機能を有するテナント設置への補助や既存事業者への支援体制を整えることができた点を評価したい。	・連番11「有害鳥獣の捕獲と防除体制への支援」については、農作物の被害額が事業当初から目標値を上回り被害が拡大し大変な苦勞である。捕獲や防除体制の支援を実施しても追いついていない状況で、令和5年度から実施している関係団体との事業を実施しても実績値は増えている。 ・連番13「豊川産農産物のブランド化・販路開拓への支援」について、とよかわブランド認定委員会の事務局である豊川市観光協会と連携したらどうか。とよかわブランドの加工品を都市圏プロモーション、イベント等での物産展で販売PRすることで周知が広がるのではないかと。また、観光協会の観光情報配信でもPRしたらどうか。KPIについては目標値を下回っているが、評価理由、前年度の実績等と比較すると効果を發揮できている。
≪基本目標②≫ひとの流れづくり		・KPIで転入超過の状態が続いており非常に効果の高い施策となっている。ただ実績値①（出生・転入－死亡・転出）は、計画を開始した平成30年以来最も多いマイナス値となった。基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる地域社会づくり」の取組との連携や健康増進の取組強化が今後のポイントだと考える。転出防止や転入増加は水物の部分もあるので出生者数増加や若い世代の転入策の検討も進めてほしい。		・KPI「年間観光入込客数」、「市内宿泊施設宿泊者数」は、目標値に届いていないものの前年値より増加しており施策の効果がでていると評価する。 ・興味がある点は、中心市街地の通行量が上昇下降を繰り返している理由についてである。 ・令和8年の午年開帳や令和12年の大開帳など、地域資源を生かせる行事が控えていることから、ひとの流れづくり（交流人口）の更なる成果を期待したい。	・KPI「SNS登録者数」が目標値の2.87倍になり、本市の魅力配信の継続が広がり効果が十分に発揮できている。特に近年登録者数が増えている要因についてコメントの記載があるとよい。また、転出増加の男女の比率、年代の記載があるとわかりやすい。
（１）企業立地・産業集積の推進		・連番20「トップセールスによる企業誘致」は市長のトップセールスを有効に活用し非常に成果のあった事業である。 ・連番17「企業立地支援策の啓発」はどのように目標管理をしていたのか。適切に管理していれば、あと2社訪問等でできたと思う。一般企業では2件のショールトはありえない。各担当の営業意識を向上させるべきである。	・国道151号について、市境（新城市）の部分で未着工となっている部分があり、企業誘致等でトップセールスが結果を出しても永続的な効果の期待へつなげていけない状況と捉える。早期に全線開通をさせることで企業誘致であったり製造品出荷額等の増加へと効果が期待できるのではないかと。	・竹本市長のご尽力もあり、連番16「新規工業用地の開発」、連番17「企業立地支援策の啓発」は大いに評価できる。 ・名豊道路が当10の完成が寄与していると推測できるが、工業用地を希望している方が多いとのことであり、企業立地奨励金や雇用促進奨励金の活用で、優良企業の誘致に期待したい。併せて、豊川市のふるさと納税を意識した企業誘致に期待したい。	・十分に効果を發揮できている。素晴らしい。
（２）地域資源の活用推進		・KPIは令和元年以来全項目「B」評価と効果の高い施策だといえる。 ・連番21「とよかわブランド推進事業」については、市外県外に目が行きがちだが、まずは市内へのアプローチを強化してみてもどうか。バラをはじめ大葉や音羽米などを対象としたイベントが多く開催されるようになってきており、市もうまく連携してPRした方がよい。地元が盛り上がりなければ市外県外には広がらない。 ・連番22「赤塚山公園の賑わい創出に向けた再整備」について、ハード面の整備は完了したものの観光シーズンや週末の駐車場問題、真夏真冬の集客などソフト面の課題がまだまだある。この事業は完了とするのではなくソフト面の整備として残した方がよい。 ・連番27「豊川公園の多機能化への再整備」の令和6年の目標値設定は変更ができなかったか。大規模改修はわかっていたのではないかと。これでは適切に評価ができないため、理由欄には「減少した」という目標比ではなく定性的な記載で適切に表現してほしい。	・歴史・文化、自然環境、特産品などの独自の地域資源の活用による来訪者の増加を図る施策の推進となっている。豊川海軍工廠跡地も整備され豊川市が空襲を受けた事実を後世へ伝えとともに、「平和都市宣言」をしていることも踏まえ、もっと発信力を高めた活用推進の見直しが必要ではないかと。		・連番23「スポーツイベントの活性化」については、リピーターの参加も多く、特にリレマラソンは、飲食、宿泊を伴い、観光消費額が見込める事業である。豊川公園にキッチンカー、テント等の配置をして賑わいづくり、豊川いなり寿司教室など来訪者へのおもてなしは、とても好評で他地域からもリピーターのある事業である。参加者数が目標値に達しないが、効果を十分に発揮できている。連番27「豊川公園の多機能化への再整備」の指標が「運動施設利用者数」だけとなっているが、校中トンネルのライトアップ設置場所等にセンサーをつけて通行量を把握できないか。費用が課題だが、年間を通して調査することができ。運動施設利用者だけでなく、公園としての来訪者実績を把握する際には、イベント参加者、芝生広場や遊具活用者、桜まつり、市民まつり等の来場者数も特定できた方がよい。多機能化への再整備の活動指数の把握が運動施設だけになっていたのが気になったため記載した。全体的な効果については、十分に発揮できている。
（３）シティセールス・観光の振興を核とした移住・交流等人口の拡大の推進		・いずれのKPIも前年を上回っており施策の効果は概ね発揮できている。 ・連番30「インバウンド対策事業」はコロナ前に設定していた目標値に近づいてきた。コロナ前とは訪日旅行者の出身国も変化してきている。改めて目標値を設定するとともに戦略的な取組方を考えてほしい。 ・今月JGが外国人を対象とした宿泊イベントを実施すると聞いている。その辺りなどのかかわっているのか。うまく連携して効果を高めてほしい。 ・連番31「都市圏プロモーション事業」や連番35「ふるさと納税および企業版ふるさと納税の活用を通じた関係人口の創出・拡大」などは担当部署の能動的なアクションに非常に好感を持っている。		・妙厳寺の午年開帳や令和12年の大開帳が控えているなかで、連番30「インバウンド対策事業」、連番31「都市圏プロモーション事業」、連番32「観光ルート整備事業」、連番33「観光おもてなし力促進事業」、連番34「シティセールス推進事業」の取組は評価できる。特に、連番30「インバウンド対策事業」は、前年比19,280人増であり令和3年まで設定していた目標値にむけて回復傾向であることは評価できる。 ・連番31「都市圏プロモーション事業」、連番33「観光おもてなし力促進事業」、連番34「シティセールス推進事業」も目標値を達成しており、次年度以降も活動成果の発揮が期待できるものと評価する。 ・連番35「ふるさと納税および企業版ふるさと納税の活用を通じた関係人口の創出・拡大」において、目標値の達成は評価できるものであり、次年度以降の目標達成につながる結果であると考ええる。	・連番31「都市圏プロモーション事業」、連番34「シティセールス推進事業」については、実施回数が指標になっているが、活動時の来訪者数などの実績に修正できないか。回数では効果が評価しにくいいため、事業連携している豊川市観光協会へ来訪者数等を調査依頼するとよい。しっかり事業を行っているため、評価しやすい指標への修正は重要だと感じる。

基本目標		委員 9	委員 1 0	委員 1 1
施策		意見	意見	意見
≪基本目標①≫しごとづくり		・KPI「有効求人倍率」については、内部評価での指摘のとおり、求人方法の多様化によりこの指標で実態を把握できないのは同意である。とはいえこの指標以外に評価指標として、適切なものも挙げにくい。		・KPIの目標達成率25.0%（8項目中2項目）は気になる。
	（１）創業・起業・販路開拓支援、新たなビジネスモデル構築などへの支援	・施策単体としては大変評価したい。さらに、各項目での対象者の追跡調査を行い、継続しているか、支援が実際の売上、利益等に結びついているかを評価できるとよいと思う。		・KPIは「創業者数」、「販路開拓支援件数」ともに目標値を上回っているため総合的には十分発揮できている。 ・細かい事業を見ると実績値が低いところがある（連番1「チャレンジとよかわ活性化事業」、連番4「未来技術の社会実装を通じた地域産業の強化」）。また、連番3「遊休不動産などの活用による創業支援」の目標値が例年に比べて極めて低くなっている点は気になる。
	（２）就労促進、人材育成支援	・アンケート結果をフィードバックするなど、PDCAを回しているところを評価したい。 ・多くの若者が奨学金を利用している現状を見ると、連番9「奨学金返還支援事業」は予算を大きくして補助割合も大きく増やしてみることが価値があると思う。		・実績値が増えてはいるが、KPI「就労促進に関する事業への参加者数」は「C」が続いているのは多少気になる。 ・細かい事業を見ると、連番6「地域技能者活用事業」や連番9「奨学金返還支援事業」といった若者支援は将来にわたる豊川市の産業人材を確保する上で重要な事業で評価できる。実績値も高い。 ・連番7「若年者の就労支援」は目標値を実情にあった数値にしても良い気もする。 ・県主体の連番8「首都圏人材確保支援事業」を除き、市独自の施策であれば、もっと報道に情報提供をして周知を図っても良いと思う。
	（３）農業・商業の活性化と経営・生産性向上の支援	・大前提で食糧安全保障は国が率先して取り組むべきだが、どうもそうではないように感じる。その中にあっては、地方自治体が主導して経済活動が地域で完結する社会の実現をすることが重要であり、その根幹は食にある。幸いにも当地区は、それが実現できる環境（気候風土）にあると思うので、取組内容の抜本的な変更を求めたい。例えば、現状の取組内容について、就農者に対する補助はもっと金額を大きくし積極的にするべきだと思う。（5年間ぐらいは面倒見るぐらいではどうか。） ・連番12「耕作放棄地解消への支援」に関しての取組は、目標に届かずとも評価したい。		・KPIは目標値と実績がそれほど乖離していないので発揮できているという評価でよいと思う。 ・事業の自己評価は「△」の評価も目立つが実績値はゼロではない。連番14「地産地消、食育推進への支援」などはSNSでの発信などで近年より大幅に伸びており評価できる。
≪基本目標②≫ひとの流れづくり		・内部分析コメントにある出生・死亡数は前年度からは大きな増減はないが、平成30年や令和元年から比較すると明らかに大きな出生数の減少か死亡数の増加が見て取れ、その原因を追及するべきである。 ・実績値②で（転入－転出）ではなく、それぞれの絶対数を評価すべきではないか。		・KPIの目標達成率は20%で、目標を達成したKPIは5項目中1項目にとどまったことは気になる。
	（１）企業立地・産業集積の推進	・かなり頑張っておられるし、結果にも結び付いていると思う。引き続きの対応をお願いしたい。		・各事業を見ても企業誘致は順調と評価する。
	（２）地域資源の活用推進	・市内宿泊者は、観光なのか、ビジネスユースが多いのか、それもわかとよいと思う。		・KPI「年間観光入込客数」、「中心市街地の通行量」、「市内宿泊施設宿泊者数」のいずれもコロナ禍を経て順調に回復してきており評価できる。連番25「スポーツ・文化活動等合宿への支援」は県内外へのPRが奏効している。スポーツ、文化活動等の合宿で宿泊誘致数は珍しい取組に感じる。今後も伸びしろがあるのではないか。連番22「赤塚山公園の賑わい創出に向けた再整備」、連番28「文化活動を通じた環境整備」は完了後の活用にも取り組んでほしい。
	（３）シティセールス・観光の振興を核とした移住・交流等人口の拡大の推進	・豊川が観光の目的地になるのか、それとも通過点であるのか、観光入込客数における割合も評価できるとよい。（かなり困難かもしれないが。）		・KPI「年間観光入込客数」、「市内宿泊施設宿泊者数」はいずれも目標値に年々近づきつつあり評価できる。SNS登録者数も右肩上がりでよい。 ・連番30「インバウンド対策事業」は実績値が大幅増になっている。目標値は早期に設定して取り組むべきである。午年開帳、大開帳に向けてさらなる増加の可能性があると思う。

基本目標		委員 9	委員 1 0	委員 1 1
施策		意見	意見	意見
≪基本目標③≫結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる地域社会づくり		・出生率の減少には様々な要因があり、それらが相互に絡み合っていることも考えられ、対策をすることは難しいことだとは思う。内部評価でも触れられているが、人口減少の中でも経済や生活環境の維持を図れるようなドラスティックな政策の変更は必要だと思う。		・KPIについて「合計特殊出生率」以外は、目標値から大きく乖離しておらず一定の評価ができる。
	（１）安心して出産し、子どもが健やかに育つための支援	・よく頑張った原因を仮定し対策を取っていると思う。	・本施策のKPIである「子育てを前向きに捉える親の割合」が平成30年より低下している。新たな事業がある中での低下は、支援が十分に届いていない可能性がある。子育ての肯定感は「住みたい豊川市」に向けた重要な施策である。	・KPI「子育てを前向きに捉える親の割合」は目標値より5ポイント足りないが9割あれば支援は十分と考える。 ・連番39「産婦健康診査事業」の公費負担の制度見直しは広報だけでなく、報道機関やSNSなどで周知すれば改善も可能なのではないか。どの事業も概ね目標値に近く出産育児の支援は充実しているように感じる。
	（２）保育サービス・子育て支援サービスの充実と子育てにやさしいまちづくり	・本施策に関する各事業へのニーズが大きくなことが改めて感じられた。しっかりと今後も取り組んでいただきたい。	・施策のKPIについて、子どもの預け先の増加が共働き世帯や核家族の増加と関係しているのではないかと。同居には負のイメージもあるが、子育て・介護・世代間のつながりの面でその役割が増していくと考えられる。	・KPIの「3歳未満児の受入れ」や「放課後児童クラブ利用者数」は目標値以上もしくはほぼ達成となっており、サービスの充実を感じる。各事業も目標値にほぼ近く、概ね良好といえる。目標値と実績値について唯一乖離が大きい連番57「病児・病後児保育事業」については、保護者ニーズに寄り添った実施の検討が必要である。
	（３）共生のまちづくりの推進	・自立高齢者の割合は、できる限り100%を目指すことが地域社会にも重要なことであるので、今後とも今の取組を続け発展させてもらいたい。	・施策のKPIである「女性(日本人・外国人)の転出・転入者数」が目標に達していない背景には就労の受入れ人数との関連も考えられるのではないかと。本施策は高齢者に対しては一定の効果が見られる一方で、障害者や外国人児童、外国人住民とのコミュニティ形成については、地域単位での活動が十分に行われていないように見受けられる。	・連番66「外国人児童への日本語学習機会の提供」については、こぎつね教室入室率がずっと100%であり、共生社会実現にとっても高く評価できる。連番67「外国人受入環境整備事業」の外国人相談窓口の実績も同様である。すべての事業で目標値以上もしくは概ね達成しており、共生のまちづくりは順調に進んでいると感じる。
≪基本目標④≫安全で快適に暮らせるまちづくり		・安全・安心は、安定した地域社会の実現の要の一つなので、引き続き努力していただきたいが、KPI「「安全・安心」市民満足度の平均値」が高水準であることは評価したい。		・「暮らしやすい豊川市」が目標達成率の高さに現れていると感じる。
	（１）拠点間の連携・拠点周辺への都市機能集約と居住の促進	・コンパクトシティ化は、今後のインフラ設備の維持のためにも大変重要であるので、拠点への集中は今後も進めていただきたい。 ・コミュニティバスの利用者数がかかりいることに驚いたが、潜在的にはもっと多いのだらうし、今後の高齢化社会を考えると増加すると考えられる。路線数やバスではなく、将来的には軽自動車と自動運転を合せた多路線化やオンデマンドでのサービスなどを考えていくべきである。		・目標を下回っている事業もあるが社会情勢などによるもので、また目標値には届かなくても年毎に改善されていることもあり概ね良好な印象である。
	（２）地域の安全・安心・高付加価値化の推進	・防災対策として有事のエネルギーの自立化を進めるために、太陽光発電と蓄電池を一体として、地域の公共施設に早急に具備すべきと考える。結局電気が無ければ何もできない。		・KPI「「安全・安心」市民満足度の平均値」、「防災アプリおよびよかわ安心メール登録者数」、「交通事故（人身）年間発生件数」はいずれも目標値を上回っており、「安全・安心のまち」が達成できているとの印象がある。 ・連番88「再生可能エネルギーの活用促進への支援」は、メニューごと補助件数の設定では市民ニーズをとらえきれないということだが、改善が可能であれば検討が必要である。
	（３）地域マネジメントと民間活力の導入	・技術の進化は予想以上に速いので、行政サービスへのAIの導入をもっと推進してよい。 ・民間の活力導入は良いが、将来的に市民サービスの低下や不公平を招く可能性もあるので、インフラ整備への活用に関しては慎重に取り組むべきであるし、代替の方法なども検討すべきである。		・多くの事業で目標値を達成しており、それ以外でも実績値は目標値と大きく乖離しておらず概ね評価できる。